



| | |
|--------------|---|
| Title | 大阪大学低温センターだより No.16 裏表紙 |
| Author(s) | |
| Citation | 大阪大学低温センターだより. 1976, 16 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/21884 |
| rights | |
| Note | |

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

編集後記

お待ちかね、16号をおとどけします。長谷田編集長のモットー、「小学生にもわかるように」が編集委員は勿論、著者の方々にも御理解いただいて、毎号興味深く、わかりやすく、しかも格調の高い話題を提供しているものと自負しています。今号トップの藤田先生、今年5月のいちよう祭の時、公開された超高圧電子顕微鏡の前で自ら説明役を買ってでられ、御自慢の「生物を生きたまま観測できる」というキャッチフレーズの説明には泳いでいる魚の絵がありました。まさに我が「センターだより」のモットーにぴったり。しかも今回の原稿には万人向きの解説の中にもキラッと光る何か（藤田先生の表現）がちやんとおさめられています。転位のダイナミックスは最新の御研究だそうで貴重なデータは表紙にかざらせていただきました。編集会議の席では写真提供者の苦勞も知らないで「もっとコントラストは強くないのかな」とか「四枚もいらないだろう、一枚だけにしよう」とか勝手な意見が出ましたが、原稿をいただきに上った山本編集委員が、藤田先生から「これはこの超高圧電子顕微鏡でないととれない貴重な写真であり、しかも転位のダイナミックスをみるには四枚組んでないと意味をなさない」と言われた旨報告があり一件落着。素人目に美しい写真をとるだけならばこんな3MVもの顕微鏡は不用とのこと。一同成程。

（本 河 記）

大阪大学低温センターだより 第16号

昭和51年10月 発行

編集責任者 長谷田 泰一郎

発行者 大阪大学低温センター

吹田分室 大阪府吹田市字山田上

電話 (06) 877-5111

内線 4105

豊中分室 大阪府豊中市待兼山町

電話 (06) 856-1151

内線 2562

印刷所 と う け ん 社

大阪市福島区海老江8丁目7番27号

電話 (06) 451-1061

代表 村 上 喜 与 志

